

第1章 策定にあたって

1.1 熊取町下水道ビジョン（経営戦略）策定の趣旨

本町の下水道事業は、昭和 63 年度の熊取町南大阪湾岸中部流域関連公共下水道事業計画認可取得以降、平成元年度より公共下水道工事に着手し、令和元年度末下水道普及率については、81.6%に達したところです。

その反面、約2割の未普及地域の住民の皆さまより、早期の下水道整備の要望が多くなっている状況です。

また、これまでは、下水道の早期整備を主に鋭意推進してきましたが、民間住宅開発から帰属された受贈施設も多く、特に昭和 40 年代の下水道施設においては、約 50 年を経過しており、老朽化対策が未普及地域の早期整備とともに、重要な課題となっています。

一方、財政面においては、「雨水公費・汚水私費の原則」に基づき、汚水処理に要する経費については、独立採算制の考えにより、下水道使用料で賄わなければならないため、より下水道経営の明確化・健全化を図ることを目的に平成 30 年度から地方公営企業法を適用したところです。

また、本町の下水道事業運営における重要な財源である下水道使用料については、近年までは、整備に伴う水洗化人口の増加に伴い増加傾向でありましたが、今後においては、人口減少及び1人あたり有収水量の減少などにより、使用料収入の減少が予測されています。

このような中、公営企業会計に移行したタイミングにおいて、『見える化』した長期的な将来像を設定するとともに、今後の下水道事業が、持続可能で健全な運営を図ることを目的に、令和元年度から「熊取町下水道事業経営委員会」のご意見をいただき、下水道施設の老朽化対策のための「ストックマネジメント計画」、公衆衛生の向上と公共用水域の水質保全に寄与した計画的かつ効率的な「整備計画」及び持続可能で健全性かつ透明性のある「経営戦略」の3つの計画を取りまとめた『熊取町下水道ビジョン（経営戦略）』を策定しました。

同委員会で定められました『住みたい、住み続けたい、いつか帰りたいまちを支える下水道』の実現を目指します。

1.2 熊取町下水道ビジョン（経営戦略）の位置づけ

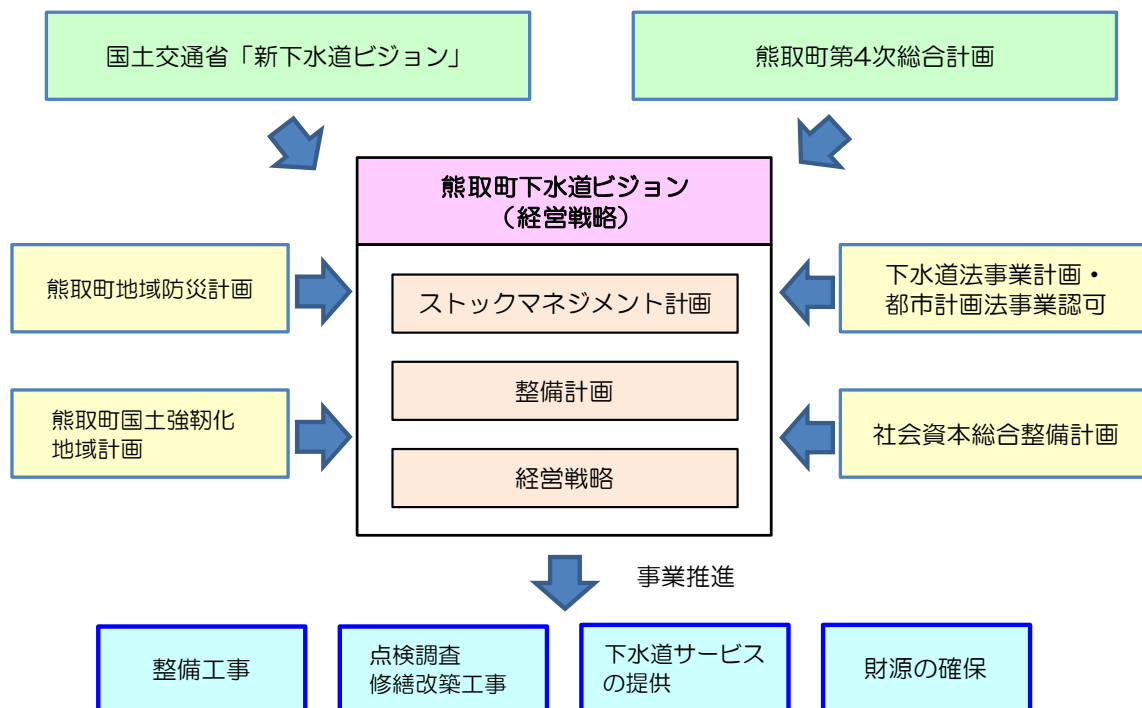


図 1.2.1 熊取町下水道ビジョン（経営戦略）の位置づけ

1.3 計画期間

本ビジョンの計画期間は、令和3年度から令和12年度の10年間としています。

国が示す「新下水道ビジョン」では、長期ビジョンを実現するための中期計画期間は10年程度であることに加えて、「経営戦略策定・改定ガイドライン」においても、中長期的な視点から10年以上を基本としています。

また、ビジョン期間は10年間の長期にわたるため、5年ごとに前期目標・後期目標としてPDCAサイクルに基づき進捗確認と評価を実施し、必要が生じれば改善していきます。

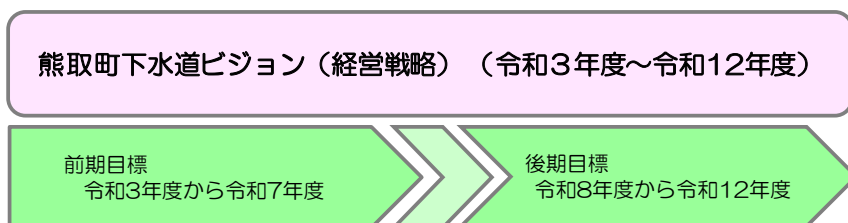


図 1.3.1 計画期間

1.4 下水道の役割

地下に埋設されているため普段目にするのことがない下水道ですが、見えないところで私たちの安全・安心で快適な生活を支えています。

下水道には4つの大きな役割があります。

役割① 街を清潔にする

- ・悪臭対策として、くみ取り便所を無くし衛生的で快適な生活環境を確保します。
- ・生活雑排水が直接川へ流れることがないため、街が清潔に保たれハエ、蚊などの害虫や悪臭の発生を防ぎます。

役割② 身近な環境を守る

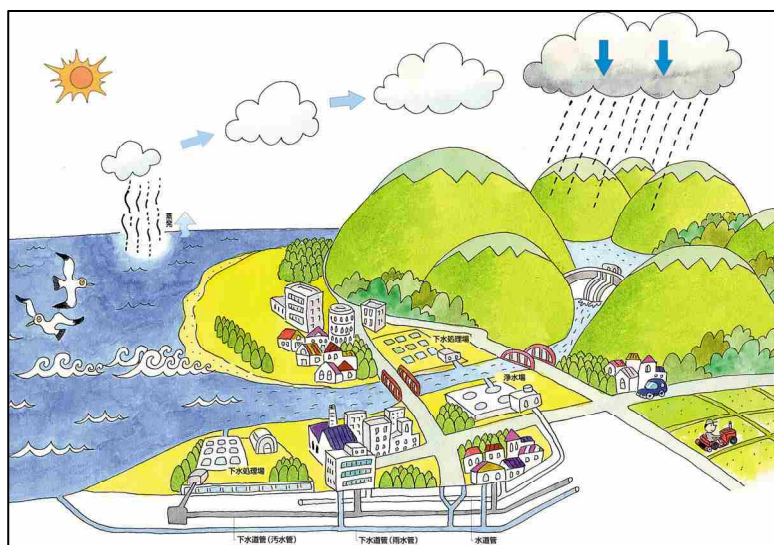
- ・家庭や工場から出た汚水は、下水道管を通して下水道処理場（中部水みらいセンター）に運ばれ、さまざまな処理をおこないきれいになった水は大阪湾に戻されます。

役割③ 街を浸水から守る

- ・市街地の雨をすみやかに排除し、街に雨水が溜まり水浸しにならないよう、すばやく排水しています。

役割④ エネルギー・資源を創る

- ・下水処理場できれいになった水を再生水として利用したり、下水処理の過程で発生したバイオガスを利用したり、下水汚泥から肥料や建築資材を創ります。



出典：（公社）日本下水道協会ホームページより

図 1.4.1 健全な水循環を担う下水道